

# 献 辞

人文学部部長 久保克彦  
人間文化学会長

2019年(平成31年)3月末をもって、黒木雅子先生が退職されることとなりました。4年前に本学部は、人間文化学部から人文学部に改組され、さらに次年度からは新カリキュラムが始まるというこの時期に、黒木先生を失うということは、誠に残念でなりません。黒木先生には、まだまだ人文学部のためにお力をお貸しいただきたかったと思っています。

黒木先生は、1973年に神戸女学院大学をご卒業後、数年間、神戸YWCAに勤務されましたが、その後9年の間に、2度にわたって米国カリフォルニア州立大学大学院やパシフィック宗教大学院に留学されました。ご専門は、社会学、女性学、宗教学であり、本学でのご担当科目は、「ジェンダー論」「文化社会学」等でした。代表的なご著書は「異文化論への招待」「混在するめぐみ—ポストコロニアル時代の宗教とフェミニズム」「国家を超えるとは—民族・ジェンダー・宗教」等です。

本学への着任はちょうど阪神・淡路大震災があった1995年であり、初めて亀岡キャンパスにやってきた時は、リュックを背負いながら、嵯峨野線が動いているのか心配しながらやってきたとのことでした。そのせいで、亀岡キャンパスには愛着があり、太秦キャンパスから亀岡キャンパスに移動してくると、ホッとするともおっしゃっています。当時の思い出としては、今はなくなった尚志館の大教室で、300～400人くらいの学生を集めて行った講義が一番印象深いそうです。

学生たちに残したい言葉をお聞きますと、「今の学生は余裕がなく、いつもしんどそうで、無理をしている感じがする。もっとじっくり時間をかけて、自分が進むべき道を見つけて欲しい。私が大学教員になるなんて、若い時は思ってもみなかったが、この仕事に就けたことは本当に良かった

と今は思っている。この道を見つけるまで長い時間がかかったし、遠回りもしてきた。学生さんたちには、他者と比べずに、じっくり自分探しをしてほしい」とのお言葉をいただきました。

最後に、今ここで、黒木先生をお送りしなければならないのは、誠に残念なことではあるのですが、これまでの黒木先生の京都学園大学へのご尽力に感謝の言葉を申し上げ、先生の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。